

1 ナラ枯れ被害について

第50回県民会議資料
水源環境保全課作成

ナラ枯れ被害とは
カシノナガキクイムシ(体長5mm程度の甲虫)が媒介する**ナラ菌**により、
コナラ・ミズナラ等のブナ科の樹木が集団的に枯損する現象。

【ナラ枯れ被害の状況】



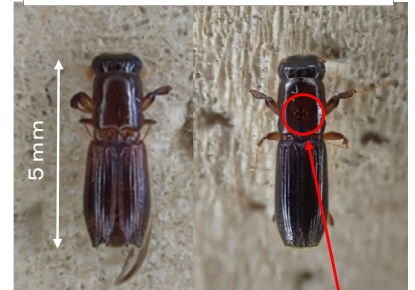
(被害箇所: 横須賀市長沢のマテバシイ)



(被害箇所: 箱根町湯本のコナラ)

まきや炭として活用されていたナラ類が近年利用されず、大径木化したことが要因とされている。

カシノナガキクイムシ(在来種)



オス

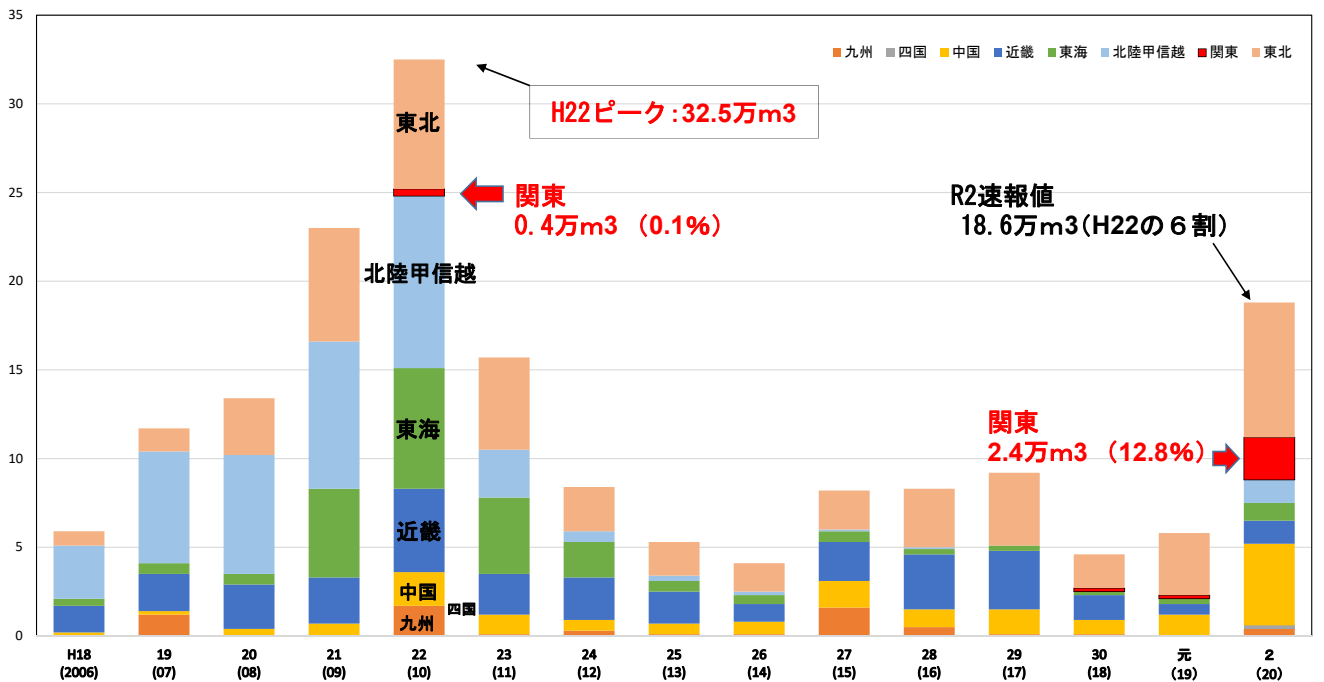
メス

ナラ菌の胞子貯蔵器官



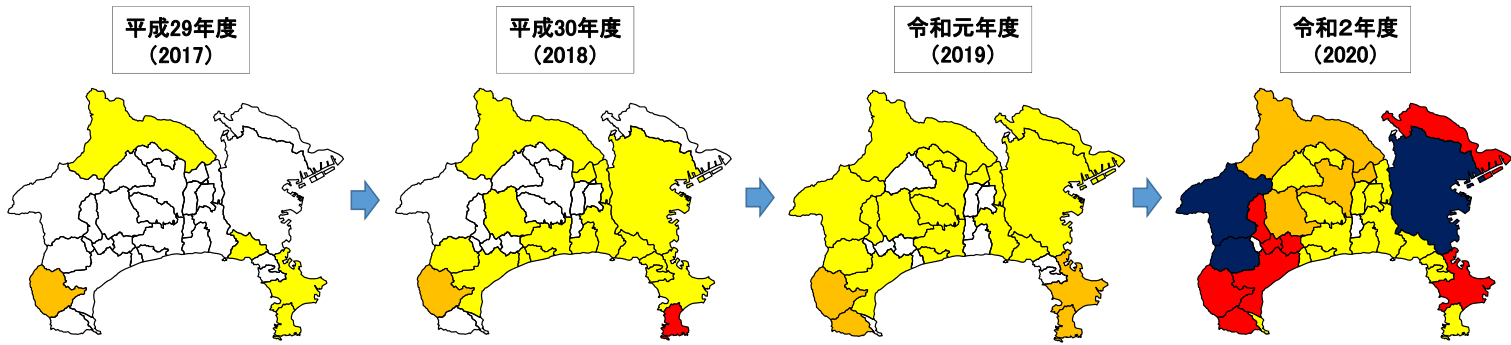
フラス(木くず)の状況
カシノナガキクイムシが穿孔したため

2 全国のナラ枯れ被害の推移 (被害材積)



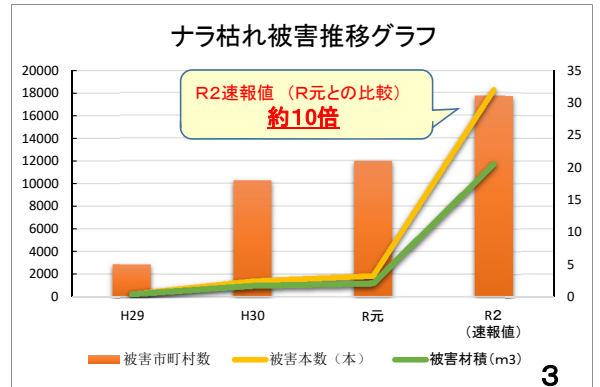
神奈川県で初めて発生

3 神奈川県におけるナラ枯れ被害発生市町村の推移 (被害材積)



被害材積	
100m³未満	黄色
100m³以上300m³未満	オレンジ
300m³以上1,000m³未満	赤
1,000m³以上	黒

○被害発生市町村数は、発生当初の5市町村から31市町村に拡大
○被害量は、昨年度の約10倍に増加



ナラ枯れ被害の諸数値

	H29	H30	R元	R2(速報値)	4か年合計
被害市町村数	5市町 (4市1町)	18市町 (14市4町)	21市町 (15市6町)	31市町村 (19市11町1村)	31市町村 (19市11町1村)
被害本数(本)	239	1,392	1,844	18,224	21,699
被害材積(m³)	239	977	1,195	11,700	14,111

3

4 現在の取り組みと今後の対策

○現在までの取り組み

1 関係機関との連絡調整会議・研修会の実施

2 駆除対策に関する事業

(1) 県の補助事業

事業名：森林病虫害等防除事業費補助

事業主体：市町村等

負担割合：国1/2、県1/4、市町村1/4

(2) 森林環境譲与税(市町村に配分)

一部の市町では、ナラ枯れ防除に森林環境譲与税を活用している。

(3) 各管理者による対策

都市公園などでは管理者が対策を行っている。

○今後の対策(現在までの取り組みに加え)

1 ナラ枯れ防除ガイドラインの作成

(1) 人的・社会的影響への優先順位に応じた被害対策について

(2) 被害状況に応じた被害対策について

(3) 対策の手法

(4) 被害材の利活用及び留意点について

2 被害把握の広域化・効率化

ナラ枯れ被害出現前の5月と出現後の9月の2つの衛星デジタル画像を活用し、それを比較解析することで被害状況を把握する。

○駆除の例：伐倒くん蒸(駆除) (焼却・粉碎する場合もある。)



被害木を伐倒して薬剤が浸透しやすいように切れ込みを入れた木を集積する。



シートで被覆し、薬剤でくん蒸する。

※他にも予防として立木くん蒸、薬剤樹幹注入がある。

4

5 被害森林の更新について

【横須賀市のマテバシイ林の例】



2017年の林内の様子

2017年

ナラ枯れの被害を受けた森林



2020年の林内の様子

3年後(2020年)

上層木が枯れ、光環境が向上したため、下層植生が繁茂している。
⇒ 更新を阻害するニホンジカがいないため森林としては再生する可能性
引き続き、森林の更新について注意深く見ていく。

【課題】

- 森林総合研究所によると、被害森林を更新させるためには、更新を阻害する要因を排除することが必要。
- 山形県の例では、低木層にある耐陰性の強いユキツバキなどが更新の阻害となっている。
- 本県の場合、丹沢、箱根地域ではニホンジカの影響を排除することが課題である。